

Kaneka
カガクで、ネガイをカナエル会社。

美しさ
という性能。

カネカ太陽光発電

これ、どこが太陽電池かわかりますか。
カネカの太陽電池は、暮らしになじみながら、
美しい屋根で、美しい景観をつくります。

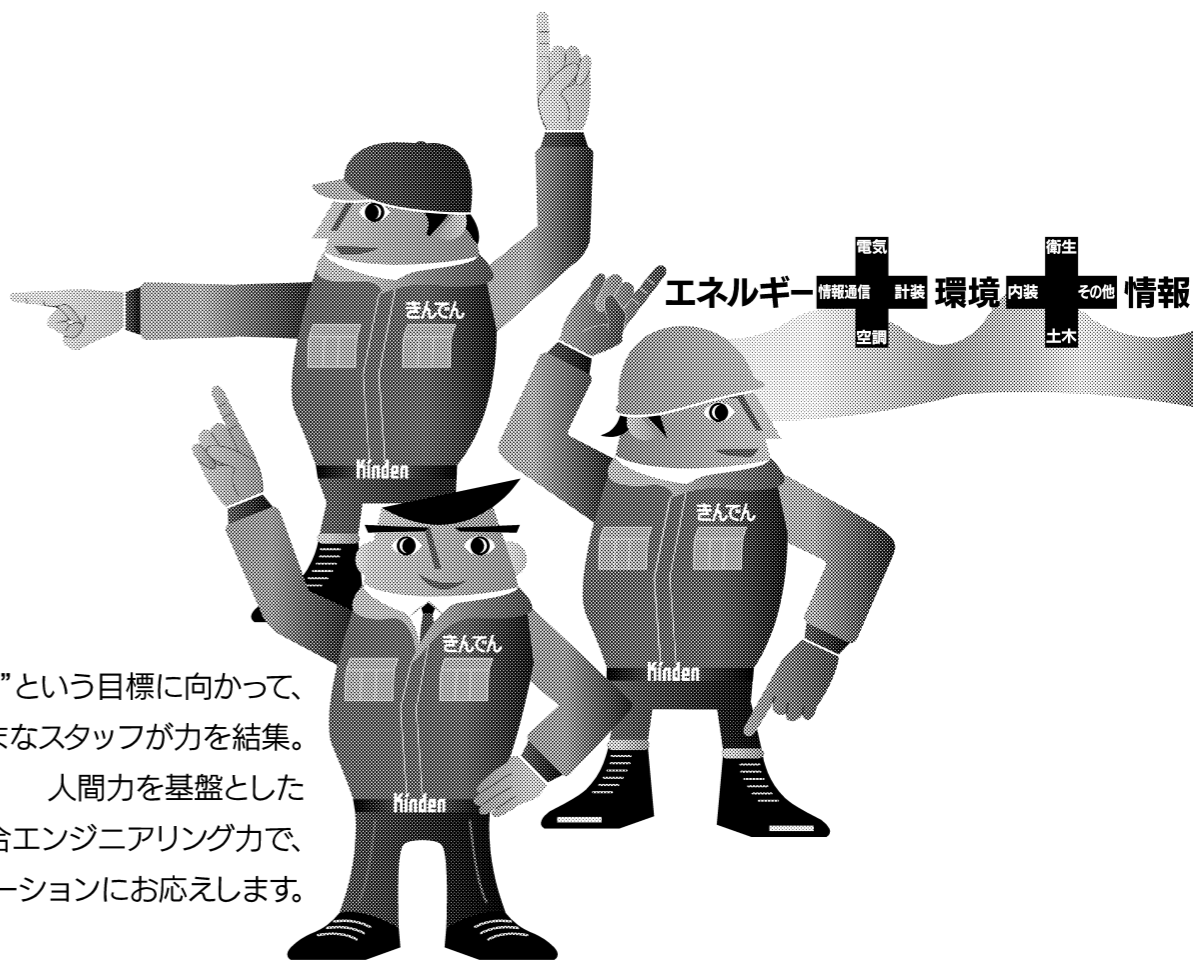


株式会社カネカ 大阪本社 / 〒530-8288 大阪市北区中之島2-3-18 東京本社 / 〒107-6025 東京都港区赤坂1-12-32 カネカ太陽電池 検索

チーム、きんでん。

(施工力+技術力+現場力)×情熱

Kinden



“お客さま満足”という目標に向かって、
さまざまなスタッフが力を結集。
人間力を基盤とした
総合エンジニアリング力で、
あらゆるソリューションにお応えします。

きんでん

本店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号 東京本社 東京都千代田区九段南2丁目1番21号
TEL.06-6375-6000 TEL.03-5210-7272
http://www.kinden.co.jp/

エネ供給、転換期迎える

このほか、産業用ガスで注目されるのはヘリウム。光ファイバーや半導体の製造、溶接、磁気共鳴断層撮影装置(MRI)の稼働などに欠かせない。しかし、最大産出国の米国が生産を減らし、世界で供給不足に陥っている。これに対し岩谷産業は8月、初めてヘリウムをカタールから輸入を始めた。米国からの調達を踏まえ、カタールから年間800万立方尺のヘリウムを32年まで輸入



ヘリウム、中東から輸入

する権利を獲得した。輸入の開始はその第一弾。国内でヘリウム供給の約40%を握る同社が新たな調達先を開拓したことは、危機的な不足を回避される見通し。しかし、今後米国内産は減少するとの見通しから、ロシアなど新たな国でのヘリウム生産が見込まれる20年ごろまでは、世界的な供給ひっ迫が続くとみられている。一方で中国や東南アジアなどの新興国でもヘリウム需要の伸びが予想されるため、岩谷産業は中東とメキシコにヘリウム供給拠点を設けた。日本での需要を見極めながら、外需も開拓する。大手の産業用ガスメーカー間のグローバルな販売競争が本格的に始まる。地震への備えもガス関連では、ガス検知・警報器大手の新コスモス電機が14年8月に製品用センサーの工場を兵庫県三木市に移転、新設



シェールガス 調達先広がる

フリーポートのLNG輸出基地(イメージ、提供: Freeport LNG Development L.P.)
均的な輸入LNGに比べて30%安い米国天然ガス価格が、オゾンが事業主となるシェールガスなどの天然ガスを調達する。

フリーポートのLNG輸出基地(イメージ、提供: Freeport LNG Development L.P.)
均的な輸入LNGに比べて30%安い米国天然ガス価格が、オゾンが事業主となるシェールガスなどの天然ガスを調達する。

関西地域の主要なエネルギー・ガス業界が転換期を迎えている。関西電力は9月15日、大阪原子力発電所4号機(福井県おおい町)を定期検査で停止した。東日本大震災による東京電力福島第一原発の事故から2年半たつが、原発再稼働のハードルは依然として高い。一方、大阪ガスは5月、新資源として注目されるシェールガスを含む米国の液化天然ガス(LNG)の輸入を許可された。各社の動向は国内のエネルギー情勢にもインパクトを与える。

国内全原発が再停止 今冬 電力需給ひっ迫懸念も

9月15日23時 大阪市 関西電力は9月15日、大阪原子力発電所4号機(福井県おおい町)を定期検査で停止した。東日本大震災による東京電力福島第一原発の事故から2年半たつが、原発再稼働のハードルは依然として高い。一方、大阪ガスは5月、新資源として注目されるシェールガスを含む米国の液化天然ガス(LNG)の輸入を許可された。各社の動向は国内のエネルギー情勢にもインパクトを与える。

関西電力は9月15日、大阪原子力発電所4号機(福井県おおい町)を定期検査で停止した。東日本大震災による東京電力福島第一原発の事故から2年半たつが、原発再稼働のハードルは依然として高い。一方、大阪ガスは5月、新資源として注目されるシェールガスを含む米国の液化天然ガス(LNG)の輸入を許可された。各社の動向は国内のエネルギー情勢にもインパクトを与える。

電力・ガス

関西電力は9月15日、大阪原子力発電所4号機(福井県おおい町)を定期検査で停止した。東日本大震災による東京電力福島第一原発の事故から2年半たつが、原発再稼働のハードルは依然として高い。一方、大阪ガスは5月、新資源として注目されるシェールガスを含む米国の液化天然ガス(LNG)の輸入を許可された。各社の動向は国内のエネルギー情勢にもインパクトを与える。

希少資源を、確保せよ。



全世界で限られた地域の天然ガス田でしか産出されないガス、ヘリウム、イワタニは、その8%相当量を取り扱えるようになりました。これは、小型コンテナ船のほぼ満載量に換算されます。

不活性で熱伝導率が高く、ガスの中で最も低い-269℃の極低温を有するヘリウム。その特性を活かして、光ファイバー、半導体、液体、太陽電池などの先端技術や、医療用MRIをはじめ超伝導分野で欠かせないガスとなっています。ところが、世界6か国でしか産出されない天然資源のため、国際的に調達が難しく、わが国でも安定的な確保が課題になっていました。イワタニはその解決に向けて、日本で初めてカタールのヘリウム直輸入権益を獲得。2013年から取り扱いを開始しました。日本は従来、ヘリウムのほぼ全量を米国からの輸入に頼っていましたが、イワタニはカタールを加えてマルチソースを実現。米国産と合わせ、そのヘリウム供給力は全世界の約8%となり、ほぼ日本の需要量に相当します。イワタニはこれから、長年培った信頼のオペレーション技術とともにヘリウムを安定してお届けし、国内はもちろん、アジアに進出する日系企業、各国の先端企業を支えていきます。ますます需要が高まる希少資源の確保を使命として、新たなソースの獲得にも挑戦していきます。

ガス&エネルギーで未来を拓く

Iwatani

岩谷産業株式会社

大阪本社 〒541-0053 大阪市中央区本町3-6-4
東京本社 〒105-8458 東京都港区西新橋3-21-8
http://www.iwatani.co.jp/

お問い合わせはヘリウムガス部へ (06)7637-3617

日本、そしてアジアへ。イワタニは、先端技術を支える「ヘリウム」のさらなる安定供給へ。